

本日公表された2万5千分1活断層図「阿蘇」を踏まえた
第四紀断層に係る技術的な確認・評価について

- ・本日、国土地理院から2万5千分1活断層図「阿蘇」が公表されました。
- ・「立野ダム建設に係る技術委員会」（以下「委員会」という）では、ダム敷及びその近傍にダムを建設する上で特に考慮する必要がある第四紀断層について、技術的な確認・評価をおこないましたが、本日の文献公表を踏まえて、改めて評価の確認をおこないました。

・その結果、以下のことから2万5千分1活断層図「阿蘇」を踏まえたとしても、「委員会」の第四紀断層に係る技術的な確認・評価※に変更がないことを確認しました。

※「熊本地震後もダム敷及びその近傍にダムを建設する上で特に考慮する必要がある第四紀断層は存在しない。したがって、断層変位によってダム敷にズレが生じることはないと考えられる。」

- ① 2万5千分1活断層図「阿蘇」には、ダム敷及びその近傍に活断層及び推定活断層は記載されていないことを確認しました。なお、国土地理院に確認した見解でも「2万5千分1活断層図「阿蘇」の調査結果では、立野ダムのダム敷及びその近傍（ダム敷から半径約500m以内）に「活断層」を示唆する証拠となる変位地形は確認されませんでした。」とされています。

② 2万5千分1活断層図「阿蘇」の立野ダム周辺には、「委員会」で地震後の現地踏査により確認・整理した亀裂（クラック）以外の新たな亀裂が記載されていないことを確認しました。なお、国土地理院に確認した見解では2万5千分1活断層図「阿蘇」に表示されている立野台地上の地震断層（黒点線）については、「地形が比較的新しいことや、変位基準となる谷等が存在しないために地形的情報からは繰り返し動いた跡を認めることはできません。」とされており、本亀裂が繰り返し動いたかどうか不明ですが、当該活断層図における分布位置、ならびに地震後の現地調査により確認・整理した亀裂や岩盤露頭の状況等から、この亀裂の分布は局所的でありダム敷及びその近傍に延びていないことを確認しました。

平成 29 年 10 月 31 日

「立野ダム建設に係る技術委員会」委員長 足立紀尚